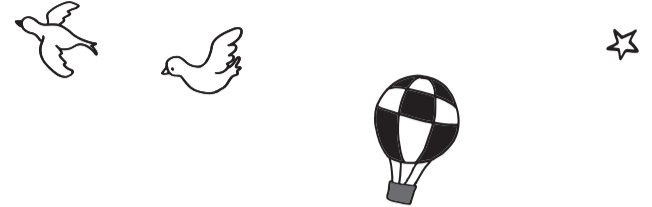


☆ 視点を変えれば、世の中は変わる。



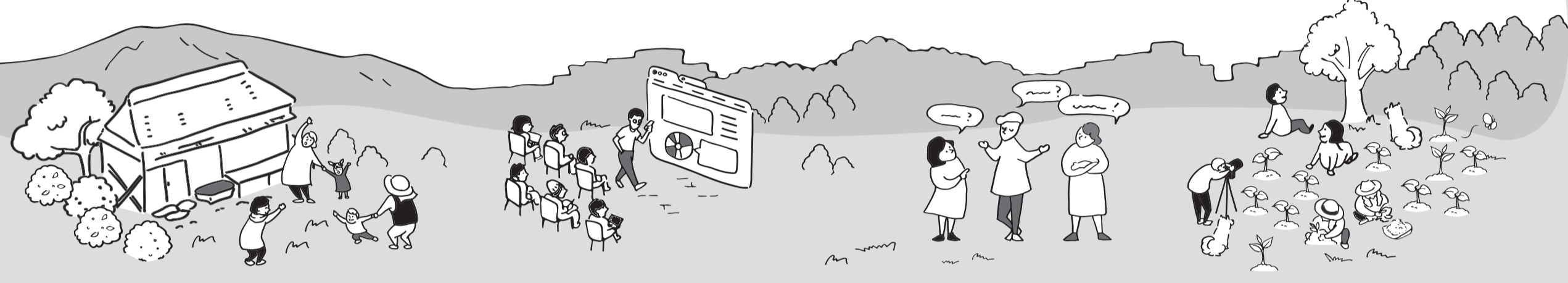
☆ Rethink=視点を変えて考える

ちょっとした問題や課題に出会ったとき、視点を変えて本質に気づくことで、前向きな行動につながります。

Rethink PROJECTは、JTがパートナーの皆さまとともに行う地域社会への貢献活動の総称です。

私たちは、心みたされるよりよい明日の実現に向けて、Rethinkをキーワードにこれまでにない視点や考え方を活かしながら、地域社会の様々な課題に向き合っています。

そしてRethinkフォーラムは、地域住民、地域企業、自治体の方々とともに地域社会の課題解決に向けてディスカッションをする場です。みんなで地域の未来についてRethinkしてみませんか？



「Rethinkフォーラム」(北日本新聞社主催、富山県など後援、公益社団法人日本青年会議所北陸信越地区富山ブロック協議会協力、Rethink PROJECT協賛)が、7月16日に富山市のANAクラウンプラザホテル富山で開催されました。第一部は、俳優で高志の国文学館館長の室井滋さんのトークショーと朗読があり、第二部では、室井さんに加え、新田八朗富山県知事、公益社団法人日本青年会議所北陸信越地区富山ブロック協議会会長の三ノ宮一貴さん、進行役のフリーアナウンサー廣川奈美子さんが、「Rethink富山～『寿司といえば、富山』がもたらす、富山のウェルビーイング～」をテーマにパネルディスカッションを行いました。

☆ ゲスト ☆



むろい しげる
室井 滋氏 (俳優)
演題：ふるさとを Rethink する
富山県出身。早稲田大学在学中に映画デビュー以来、数多くの映画賞や芸能賞を受賞。エッセイストや絵本作家としても人気が高いほか、ラジオ、朗読、ナレーションなどジャンルを超えて活躍。2023年4月から「高志の国文学館」館長を務めている。

☆ 振り返り考えることが、自分を育てる ☆

★ 二拠点生活から見える富山の魅力

一 東京でも富山でも活躍されていますね

1カ月に10日ほど富山に滞在し、「高志の国文学館」の業務、イベントやラジオに出演しています。北陸新幹線が開通してから移動時間が短くなりました。疲れないか心配されますが、私はむしろ移動する時間が好きで、新幹線の車中で体を馴染ませて本来の自分に戻るような感覚でいます。みなさんは「なーん、富山ちゃ何もないとこやちゃ」と言われますが、宝の山のような奥深い場所です。

一 二拠点生活で、どんな発見があるのでしょうか？

先日、いたち川の側の老舗の甘味処でミルク金時かき氷を食べ、昔のままの氷の食感や小豆の味に感激しました。長い時間をかけて築き上げてきた味を守られています。富山の友だちから、東京の新しい場所を紹介してと言われることもあります。写真映えを意識したものや外国人向けのお店が増え、個性

がなくなり寂しさを感じます。身びいきではなく、富山がすぐく帰りたい場所になっています。富山から東京へ出られた方にも故郷に帰って富山がいいところだと改めて感じて欲しいです。

一 富山の女性の県民性を教えてください

私の周りの富山の女性は、しっかり者で甲斐性があり、探究心が旺盛です。真面目で遅刻はしません、軟派な人や博打をする人には特に厳しいです。本当は遊びたいのに、遊んでいると罪悪感が生まれて悪いことが起きるのはと心配になる性格で、これは私にも当てはまります。幸福すぎて怖くなるころがあり、一つや二つ悩みがある方がいいと思っておられる。情にほだされやすく、オレオレ詐欺に騙されやすい(笑)。

★ 書くことが、女優業の肥やしになる

一 室井さんがRethinkする瞬間は？

女優になり43日目、初エッセイを出して33日目、絵本作家になり13日目です。女優は団体競技のようなもので、好きには

演じられません。一方でエッセイは、好きに書けます。この二足の草鞋が上手く成立し、私にとってのRethinkになりました。雪道の高速道路で事故に遭ったことも、お釣りが間違っていたことも、書くことでRethinkできます。例えば嫌なことでも、書いているとなぜ起きたのか、あの時どうしたらよかったのか、あの人はどんなことを思っていたのかなどを考え直し、自分の中に眠っている性格も見えてきます。振り返ることで反省や軌道修正、自分の弱さを知るきっかけにもなり、大げさですが自分を育てることになります。日常の小さなことを改めて考えてみるのはよいことで、私は書くことを女優業の肥やしにしています。



テーマ「Rethink富山～『寿司といえば、富山』がもたらす、富山のウェルビーイング～」

パネルディスカッション出演者 室井 滋氏、新田 八朗氏(富山県知事)、三ノ宮 一貴氏(公益社団法人日本青年会議所北陸信越地区富山ブロック協議会会長)、廣川 奈美子氏(フリーアナウンサー)

モデレーター ☆ ☆

なぜ「寿司といえば、富山」なのか

室井 「寿司といえば、富山」プロジェクトという取り組みを知り、正直なところ、最初は何か良いことがあるのかなと思っていました。ところが東京に戻ったとき「富山に寿司を食べに行きたい」と皆さんから言われ、「誘ってくれ」「おすすめのお店を教えてください」というメールがたくさん来るようになりました。本プロジェクトのPRが届いているのだと思います。

新田 日本海には約800種類の魚がいると言われていますが、そのうち約500種類が富山湾に生息しています。富山県には立山連峰と富山湾の高低差4,000mがあり、おいしい海・山・野の幸やお酒、食を彩る伝統工芸の器があり、それらを一度に堪能できるのが寿司です。国内外に「寿司といえば、富山」のイメージを拡げていくために、昨年度からブランディングを進めています。

三ノ宮 東京からUターンしたとき、改めて富山の魚が美味しいと思いました。氷見市出身なので寿司が身近にあり、特別な日は寿司を食べることが多いです。日本青年会議所(JC)関連で県外から訪れる人は、寿司と海鮮丼が食べたいと言われるので、やはり「寿司といえば、富山」が浸透しているのだと思います。

さらに浸透させるためにできること

新田 富山県は民間会社が調査する都道府県魅力度ランキング、大手旅行会社の訪日外国人観光客満足度ランキングで、どちらも22位です。そこで私たちは寿司で一点突破を狙い、魅力度をNo.1にする作戦を練っています。寿司は幸せ人口を1,000万人まで増やすための富山のエンジンになると思っています。昨年の調査によると、寿司でイメージする都道府県で富山県と回答された割合は8.9%。富山の寿司を友人等に積極的に勧める県民

の割合は45.3%。どちらも2032年には90%を目指しています。そのために情報発信や寿司職人の育成、若手が挑戦できる環境整備も推進していきます。国内外の人々に富山の寿司を評価いただくことで、県民の皆様も富山の魅力を再認識し、シビックプライドが醸成され、県民のウェルビーイングが向上し、人口減少に歯止めをかけることにもつながればと考えています。

室井 東京にカウンターのレストランで最後に寿司を3貫出してくれる店、寿司ランチの最後に鳥そばを一口食べさせてくれる店があります。どちらの店も真逆のものを少し食べさせるのが人気で、よく通っていました。今、寿司職人やお店が減っているようですが、別のジャンルの店でも最後に寿司が食べられたら人気になると思います。富山駅前にあるホテルでは、一口サイズの寿司の食べ比べができます。押し寿司であれば普通の居酒屋でも出せて良いかもしれませんが、ます寿司の自動販売機が富山駅に一台あります。氷見市出身なので寿司が身近にあり、特別な日は寿司を食べることが多いです。日本青年会議所(JC)関連で県外から訪れる人は、寿司と海鮮丼が食べたいと言われるので、やはり「寿司といえば、富山」が浸透しているのだと思います。

三ノ宮 JCでは今年度、インバウンドによる地域経済活性化の運動をしていて「寿司といえば、富山」はインバウンドに向けた強いブランディングになると思います。新幹線開通以降、北信越はインバウンドが増え、体験を目的に高額なお金を払う外国人が各地を訪れています。寿司を食べることが特別な体験になっており、もっとたくさんお金を使いたいと思っている外国人もいます。私たちにこそ寿司を食べるのは当たり前のことなのですが、視点を変えるだけで地域経済が活性化すると思います。

廣川 まさにRethinkなわけですね。

一人ひとりが、富山の寿司の魅力を発信

室井 宇奈月神社の「権利ノ濫用除お守り」を全国から求めに来ているというニュースを見ました。少しのアイデアで、何かを変えられると思います。タクシーの社名表示灯を寿司型にしたらいかがでしょうか。走っていたら話題になりますし、動く看板にもなります。そのタクシーに乗るとサービスを受けられるなどもあったらいいですね。

三ノ宮 コンビニの入り口に赤ちゃんマークがあるのを見られたことがあるかもしれませんが。これはJCが推進する「ベビーファースト運動」のステッカーで、子どもを産み育てやすい社会になるように全国で広めています。また横断歩道で手を上げて渡ることもJCが始めた運動で、今は当たり前になっています。難しいことではなく、自分たちの生活の当たり前のことを視点を変えて他人に伝えるだけでよく、「せっかくなら富山に来たら、寿司食べてかれ」と言うので良いと思います。一人ひとりの力によって「寿司といえば、富山」プロジェクトが、成功すると思います。

新田 富山の魅力を再認識し、自信を持って富山を勧めるきっかけにして欲しいのが、このプロジェクトです。能登半島と佐渡島が門のようになり富山湾にたくさんの魚が入ってくるという特徴的な地形は、世界にもなかなかありません。室井さんから、ランチで最後に寿司2、3貫出すところがいいという話がありました。そのようなことを先般イベントとして実施しました。中華とランチのシェフをお呼びして、彼らなりの寿司を作っていました。まさにRethinkと言えます。普段イメージする寿司とは違うものいろいろ出てきましたが、こうしたことも一つの実験的な取り組みとして行っています。

